

# 乙姫城

妻木城址の会

〒509-5301

土岐市妻木町3051-1

八幡神社社務所内

TEL0572-57-6441

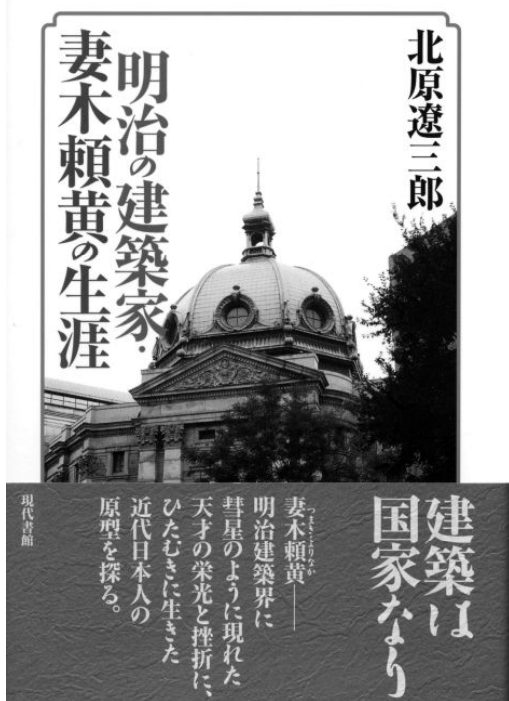
## 「明治の建築家・妻木頼黄の生涯」

### 北原遼三郎著を読んで

日本の建築界にあつて明治の建築家と云えば妻木頼黄と辰野金吾が二大巨頭と云われるのだそうです。幕末期の片や江戸の旗本・片や唐津藩士の次男坊の生まれ、頼黄は明治の官界、金吾は大学の学会に身を置いてライバルとして火花を散らす、そしてより次元の高い建築を目指して才能をぶつけ合う。そのさまがリアルにノンフィクション作家の筆で描かれています。

なぜ今、作者北原氏が頼黄を主人公にしたのでしょうか？ 私の想像を許して頂けるなら、幕末の旗本の悲哀、主を無くし、父母を亡くし一人ぼっちになった彼、そして代々の家屋敷を売って渡米、アメリカカンドリームを夢みて青春の彷徨、そして一段一段上りつめて行った日本での建築家としての生涯、そんな彼に作者は強く心を動かされたのでしょうか。

本に掲載された頼黄氏の写真は三年前、当地の「妻木の文化財展」のポスターにある勲章を胸に飾った立派な頼黄氏ではありません。孤独でどこか寂しい、しかし未来を見つめる強い瞳を持った青年の写真が作者の意図をよく著していると思います。（藤若明子）



「明治の建築家・妻木頼黄の生涯」

現代書館発行

定価2200円

お近くの書店に

てご注文下さい。

「雪姫伝説」河出文庫は絶版です。



## 「目付妻木頼矩はパラノイア」

剣豪小説や推理小説でお馴染みの異色作家南條範夫著『雪姫伝説』を手にした。

怪奇と幻想の世界を描いた短編十篇が収録されている。其の中の一編「目付妻木頼矩はパラノイア」に興味を抱いた。

すでに御存知の方も多いでしょうが。妻木頼矩は妻木城主（土岐市妻木町）の分家で現在の茨城県に領地を持つ旗本であった。多病で武技は苦手、然し抜群の秀才

であり、幕府では学問関係の要職にあった。頼矩は明治に入り帝国博物館の顧問として活躍した人である。

パラノイア 此れは医学上の術語で、我が国に移入されたのはいつ頃か正確にはわかっていない。とにかく我が郷土に関わりのある登場人物妻木頼矩。そして聞き慣れない術語パラノイア・・・早速頁に目を走らせた。

幕末の事、頼矩は徳川慶喜の命を受け、大坂城開城の城方責任者として立ち会う任務に就いた。頼矩はもともと健康がすぐれず此の重大責務に心身共に疲れ果ていた。大坂城在城も後僅かという或る日、頼矩は思いもかけぬ異様な体験をした。そして二十余年の後頼矩は友人である栗本鋤雲のもとへ訪れ、あの異様な体験を自ら語った。同席していた南條範夫の大叔父（医学者）が此談話を帰宅後手記に認めておいた。その手記が南條範夫の父の手元に残されていた。

たまたまその手記を手にした範夫。パラノイアと言う奇妙な術語を見つけたのは此の手記の文中においてである。

そして『目付妻木頼矩はパラノイア』を書き上げた。

（石井鈴子）



## 妻木城時代絵巻 流鏝馬と火縄銃の競演

十月十三日（日）

例年文化財展に催されておりました火縄銃の実演が、本年は流鏝馬に合わせ  
て行われます。ぜひお出かけ下さい。

**火縄銃の実演** 午後一時三〇分より妻木小学校で、終了後よろい武者行列  
が八幡神社へ出発します。

**流鏝馬** 午後一時より本殿にて神事、境内では花馬奉納。午後二時頃みこ  
しが参道へ、午後二時三〇分頃より流鏝  
馬が始まります。

江戸時代には、祭礼日に大名行列が行  
われていた時代がありましたので、よろ  
い武者行列によって、また一つ当時の賑  
わいが再現されます。

自動車でお越しの方は、妻木小学校が  
駐車場になります。神社周辺は車の乗り  
入れが出来ません。

公共交通機関をご利用の方は、多治見  
駅より東鉄バス妻木行きをご利用下さ  
い。詳細は事務局にお尋ね下さい。



境内では花馬奉納。午後二時頃みこ

